

母の心理 (二)

東京女高師教授

牛 島 義 友

第二節 慈母の面(つらき)

過度の愛情 この親の愛情が餘りに過ぎた場合には盲目的愛として警告される。一人子、末子、或は病弱な兒に對してはいつまでも子供を愛撫し保護し、ついに程度を越して甘えた子供にする傾向がある。過度の愛情は後に述べる心理的離乳を不完全にし、いつまでも親や他人に頼る、獨立性の少い人間にしてしまうので適當でなく、理性によつて統禦された愛情が必要であると説かれる。如何にも盲目的愛情の誤りは第一に子供のためにならない點である。しかし同時に親の側にも問題があることを忘れてはならない。前述の病弱の子供など別として、それ以外の場合に、餘りに過度の愛情に溺れている場合は親自身の愛情生活にひびが入つてゐることが多

いと米國のセイルヌ女史は警告してゐる。即ち夫婦間の愛情生活が圓滿に行かない場合に、その愛情のはけ口を子供に向け、子供を唯一の心の對象とし、めちやくちやに愛撫することが多いと言つてゐる。若しそうだとすると、美しい親子の愛情の奥に却つてみたくい愛慾葛藤が潜んでゐることになる。

女史のあげてゐる例を示そう。

或滿四歳の子供の母。彼女は絶えず子供の世界をやき、食事、着衣、入浴等の場合は何から何まで母親が手を貸すので、自分一人ではまだ何もできない。又子供の面前で子供をほめたり、子供が喧嘩すれば直ぐ加勢に行く始末で、親馬鹿振を發揮すると共に、甘えた子供にしている。この母は夫に對して不満を持つてをり、夫は夜遊びしたり、賭博に耽つて

困るとこぼしたり、たえず夫へ小言をいつている。又夫の家よりも自分の里の方が位が高いことを鼻にかけ、常に里の家に歸り、何事も里の母親に頼っている。かゝる譯で夫も自然に冷たくなる譯であるが、「子供が巧くゆかないのは全く夫のせいですよ」といつて夫を責めている。かゝる夫への失望から子供への溺愛に陥つたのである。

他の例。十七にもなる大きな男になつた息子が依然母に甘え、キャンブに行つてもホームシックのために途中から逃出してくるような始末、これ程のお母さん子になつた理由は、親自身の結婚生活にある。即ち母親は彼女の愛人が他の女と結婚してしまつたので、やむなく今の夫と結婚しているという關係で、夫が教育も智能も自分より劣つているので不満であり、ひたすら息子に自分の慰を感じていたのである。

かゝる夫婦生活の不満は妻の側にのみある譯ではない。或る教養ある實業家の例であるが、彼は心から愛していた戀人と宗教的關係から結婚することができなかつたので、左程好きでもなかつた現在の妻と結婚してしまつた。妻はひたすら夫に頼り、夫を愛し、夫の愛撫を求めているが、夫の心は何となく冷たかつた。そのうちに女の子が生れたところ、夫はひたすら娘を愛し、妻が娘に激しい嫉妬を感じる程であつたという。次に男の子が生れたが、今度は妻の方がその息子に愛を集申し、父が娘を偏愛すれば、自分も負けず息子を熱烈し、両者が競いあう形になつてしまつた。かゝる状態で十三年間たつうちに子供たちは完全にスポイルされて、手に負

えない子供になつてしまつたという。

日本の母は子供を非常に可愛がるといはれる。これは大變美しい風習である。しかし日本の夫婦の關係は愛情こまやかなものといえるであらうか。見合い結婚と封建的結婚生活のために、妻と夫の愛情が完全でなく、その結果、母は子供達に唯一の希望をつないでおるような傾向が少しでもあつたら極めて注意すべきことである。

子供を愛さない親はない。従つて母親に向つて子供を愛せよと説く程無意味なことはない。むしろ説く必要があるとすれば、先ず自分自身の愛情生活を健全に保てといふべきである。夫に見切りをつけて、ひたすら子供に愛をそゝぐような愛は不健全なものであり、かかる愛によつては子供は決して健全に育つものではない。

子を愛する親の心。親の愛情の最大の燃焼は愛兒を喪つた際に現れる。アテネのソーロンが子を喪つて慟哭止まなかつた時、或人がみかねて、そんなに泣いたからとて死んだ子は蘇生えるものではないといふと、ソーロンは、されば泣いたからとて蘇生えらなから益々悲しいといふやうに聲をあげて泣いたという。大賢といはれたソーロンのこの悲しみこそ偽らぬ親の悲しみであり、理窟や外聞を抜きにして心ゆくばかり泣きつくしたいものである。この親の愛情の表現たる村田勤・鈴木龍司編、昭和十二年岩波「子を愛する親の記」を讀むとひし／＼と胸を打たれるものがある。悲しみを色に現すを恥として育つた九州男兒中野正剛氏も長男克明君が穂高で遭

難し、いよいよ死の確報を受けられるや、昨日までの剛氣はくじかれ、三人の愛兒を膝元に引寄せ「父が泣くのをみたのは始めてだろう。今日は泣くぞ。兄弟三人力を合せて克明の分まで盡すのだぞ」と心ゆくまで泣いたという。或は渡邊房吉氏は愛兒の寫眞を壁に掛けていたが、餘り悲しいので、ある日壁から取り下ろして、寫眞を月の晩に抱き眼と眼を見合せて名を呼び、ひしと抱きしめて泣き泣いたという。

(四二〇頁)

親にとつて子供の死程悲痛極まるものはない。親の死或は兄弟の死までは心を取亂さずに耐えることができよう。しかし吾子の死に面しては何人も心の狂うのを制し得ない。これ程までに深刻な影響を興えるものは他にはない。子供の危機に際しては子供を育てるに當つての様々の苦勞はものゝ數ではなく、ひたすら子供の生存を祈り求めている。苦勞の多かつた子供程子供の死によつてはげしい虚脱感に襲はれる。自分の生活は子供にあつたことをこの時に痛切に感じる。子供は自分の生命の一部分というよりも、その中心に位していたものであることに氣付いてくる。親の使命は子供のために生きることに在る。たといそれがいかに遠きこと、煩雜なことであつても、心から喜んで受持つべき人の務めであつたことを知つてくる。

故に人は子供を喪ふことによつて、自己の本然の道に立歸り、きびしい自己反省をなし、今までの自分の生き方、人生觀を變え、碎けた心になり、宗教的な態度になる。子を持つ

年暮の社會人といえは、も早生活に迷ひはなく、確固たる足取りで、自己の業務を遂行しており、その處世觀、人生觀などは他から如何に説得されても變更することはできない程固くなつてゐるものである。處が子供の死はこの堅き心の扉を開き、驕慢心を謙虛にする。刑島八十六氏は五十枝の死は私に精神上の一大革命を惹起した。私は幼少の頃から親兄弟の縁薄く、孤獨を以つて此世の大きな荒浪に拔手を切り、今猶苦難の渦中に出渡しつつある。即ち幾多の逆境と戦ひ、あらゆる辛酸の試練を受けてきているのも早大抵のことには降参せぬつもりでいた。所謂馬上禪で充分に鍛練上げた筈であつたが、今度という今度は、實に有體に自狀する、全く弱つた。まだくゞ鍛練の足らぬことを痛感した。この感じは到底口語るべからず、筆盡すべからず。之が爲に今迄相當に築き上げた筈の私の人生觀、宇宙觀はその根底から突き崩され、からりと一變してしまつた」と述べられている。

即ちこの有能な實践的な社會人もその人生觀を根底から突き崩されている。哲學者西田幾太郎氏さえ「余は今度我が子の果敢なき死ということによりて、多大の教訓を得た。名利を思うて煩悶絶間なき心の上に、一杓の冷水を浴びせかけられた様な心地がして、一種の涼味を感じると共に、心の奥より秋の目のような清く温き光が照して、凡ての人の上に純潔なる愛を感じる事ができた。特に深く我が心を動かしたのば、今まで愛らしく話したり、歌つたり、遊んだりしていた者が、忽ち消えて盡中の白骨となるというのは、如何なる譯

であろうか。若し人生はこれまでのものであるというならば人生ほどつまらぬものはない。こゝには深き意味がなくてはならぬ。人間の靈的生活はかくも無意義なものではない。死の問題を解決するというのが人生の一大事である。死の事實の前には生は泡沫の如くである。死の問題を解決し得て始めて眞の生の意義を悟ることができると哲人らしい冷徹さをもつて深く人生を反省されている。故に社會人が人生を反省し宗教に入る機縁をしては子供の死が最大のものであるといえよう。子供の死は今までのみにくい生活闘争を終熄せしめる原子爆弾であり、又親を滅びの淵から永遠の生へと導く尊き光明である。

又子供の死による痛根は唯信仰によつてのみ癒められるものである。土井八枝氏(晩翠氏夫人)は愛嬌の美しい死により、「靈界がかくも的確にわかれば、人間が二十歳、三十歳で死のうが、七十、八十まで生きようがそれは私共にとつて問題でなくなり、たゞ清い天上に永遠に生きるに足る丈の心の準備を常にするのが人生の最大目的といふことに歸着します。私は今、愛する照の死によつて、信仰がどれ程尊い有難いものであるか、又天からの御慰めが如何につよいものであるかといふことがはつきりわかりました」(一五六頁)と、述べていられる。かく子供の死を契機として信仰生活に入り、子供に對する小さな愛が、人類に對する大きな愛に昇まつている人も多いし、少くも亡き兒のために追善の行をなすことは凡ての親の心である。(つゞく)

教育委員の選舉

— 八月十五日 —

○七月十五日新たに公布せられた教育委員會法に基いて、第一回の教育委員選舉が八月五日行われた。

○この法律は、「教育が不當な支配に服することなく、國民全體に對し、直接に責任を以て行わらるべきであるという自覺のもとに、公正な民意により、地方の實情に即した教育行政の行われるための眞に劃期的な教育制度」である。これによつて、日本の教育が従來の官僚的劃一主義と形式主義から是正と、教育における公正な民意の尊重と、教育の自主性の確保と教育行政の地方分権とにおいて、根本的に刷新される。

○がしかし、その實際の効果は一つに教育委員その人の適否によつて始めて實現せられる。

○あなたは、この大切な教育委員に對する選舉權を正しく、有効に行使しなければならぬ。また六十人以上の選舉人の連署を以て、委員の候補者となることができる。届出は九月二十八日まで。

○われらは、國の教育全般に對する識見の所有者の選出を期待すると共に、それは、幼兒教育に對する充分の理解と強き熱意とを有する人々でなければならぬ。